

イネ・ムギ・ダイズ二毛作体系でのカドミウムの吸収を抑制する技術

玄米中に含まれるカドミウムの基準の引下げや新たな品目での基準の策定が見込まれています。そこでイネ、コムギ、ダイズの二毛作体系においてカドミウムの吸収を抑制するための対策技術を明らかにしました。

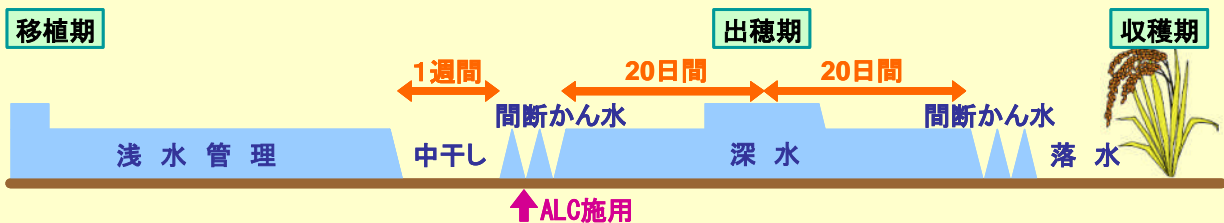
イネーコムギ体系では、土壌が酸化状態になると作物のカドミウムの吸収が多くなるので、イネの中干し期間は1週間程度にとどめます。中干しが強過ぎた場合は、穂肥時に多孔質ケイ酸資材を施用します。カドミウム吸収が抑制され、その効果はあと作コムギでも継続します。

ダイズーコムギ体系では、土壌pHを高く維持することが重要です。土壌診断を行い、土壌pHが低い場合は一年に一回以上石灰資材を施用します。

＜カドミウム吸収抑制技術のポイント＞

イネーコムギ二毛作体系

- ◎ 中干し* の期間は **1週間程度**にとどめます。
- ◎ 中干しが強過ぎた場合は、穂肥とともに**多孔質ケイ酸資材 (ALC)** を施します (カドミウム吸収抑制効果はあと作コムギでも継続します)。
- ◎ **出穂期前後20日間**は湛水状態を保ちます。

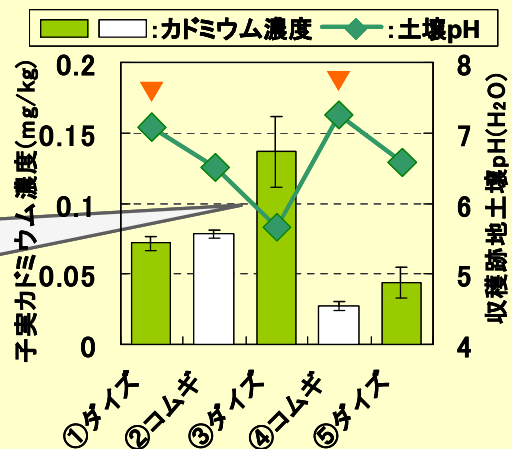


※ 中干し：根を強くはらせ、イネを倒れにくくし、余分な茎を増やさないために行う作業

ダイズーコムギ二毛作体系

- ◎ 一年に一回以上石灰資材を施し、**土壌pHを高く**維持します。

2年目(3作目: 図中③)には、土壌pHは資材施用前程度まで下がり、子実カドミウム濃度は高まります。



(※ コムギのカドミウム濃度の国際的な基準値 (CODEX基準値) は0.2mg/kgです。)

石灰資材施用効果と残効(▼: 資材施用時期)